２０２３年度子育て・教育調査研究部会公開講座
「学校統廃合が子どもや地域に与えた影響について考える」

2023 年 12 月 2 日（土）9:30～11:30
アイーナ６階　団体活動室２

主催者挨拶

子育て・教育部会長　新妻二男さん

今回の公開講座は、学校統廃合は今も県内で進んでいますが、一体それはどういうふうに子供や地域に影響を与えるものかということについてみんなで学び合いをしようということで企画したものです。

高橋さんには過去にも話を伺い今回二度目になります。そこで大いに学ばせてもらったという経緯があります。

それから蒲生さんには 2 年ぐらい前に来ていただく予定で勉強会を組んでいたのですが、コロナの影響で延期になって最終的には中止になったということで、今回 2 年ぶりでお声がけした経緯もありましたので、ぜひお話をお聞きできればということで今回おいでいただいたということになります。本当にありがとうございます。

それでは、これから実際のお話を聞くというふうにしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

子育て・教育調査研究部会の今までの取り組みから

コーディネーター　新妻二男さん

続いて講座です。私がコーディネーターを務めさせていただきますのでよろしくお願いします。具体的には今お話ししたことと関わりますが、岩手地域総合研究所という NPO 法人を立ち上げて私たちは活動しているのですが、その中にいろいろ調査研究部会があって、そのうちの一つが今回これを主催している子育て・教育調査研究部会（以後「子育て教育部会」という）です。

この子育て教育部会では 2～3 年前から学校統廃合について取り上げて、勉強会あるいは調査研究もやりたいということで進めてきたのですが、残念ながらコロナと真正面からぶつかり合うようなことになって、結果としては現地調査等々が難しいということで、繰り返し 7～8 回ぐらい勉強会を重ねてきたということです。

高校統廃合の問題、小中学校の統廃合いろいろ課題もあったのですが、まずは盛岡から見て比較的近隣にある紫波町が統廃合問題で揺れているということもあって、ここを起点に勉強会をということで、先ほどご紹介したように高橋さんには一度来ていただいて、私たちがいろんな教えを受けたという経緯もあるところです。ここでちょっと時間をいただいて我々の研究部会の勉強会で何がわかったかということだけ簡単にご紹介申し上げて具体的な中身に入らせていただくというふうにしたいと思います。

学校統廃合と公共施設等総合管理計画

ひとつは、学校統廃合が急激に推進されている。これは全国的な課題でもあるし、岩手県でも同様なのですが、この背後にあるのは何だろうかといろいろ検討してみました。一番影響を与えている可能性があるものとして、皆さんも既にお聞きお呼びだとは思うのですが、2014 年度から 16 年度にかけて総務省が全国の自治体に対して公共施設等総合管理計画というものを作り、それを総務省に提出するようにという要請があって、2022 年度の時点で全国の自治体の 99.9%が、総務省に公共施設等総合管理計画なるものを提出しているということが判明しました。

この中身を見ますと、公共施設の延床面積の４～６割を学校施設、幼稚園も含めて占めているのですが、この総合管理計画の削減の対象の中心が学校関係、保育園とか幼稚園も含めてターゲットになっているということがわかりました。そういう意味で学校について言えば、複数の小中学校を小中一貫校にして、簡単に言うと公共施設の延床面積を減らす。それから保育園と幼稚園を子供園にまとめるとか、あるいはケースによっては保育園を民間委託するということで、公共施設としての保育園を減らすというようなこととか、様々な削減方法が取られている。学校もその対象ターゲットになっているということがある。これが、まず大きな理由ではないかということです。

学校統廃合と小規模校

それから 2 つ目になんとなくわかってきたことは、学校統廃合推進の目的としてよく掲げられているのは、切磋琢磨とか学力向上とよく掲げられるのですが、実はこれはもう過去のものと思いきや全国、県内でもそうですけれども、相変わらずこれが学校統廃合の目的としてなっているという事実です。紫波町もどうもそういう傾向があるのですが、いま少人数学級、国も遅まきながら 35 人学級に移行しているところです。それから個に寄り添う教育とか様々提起されている中で、一方では小規模学校とか複式学級の子供たちの学力が低下しているとかいまだに言われています。しかし比較した場合、学力向上に小規模校が不利だというような検証は全くなくて、例えば岩手県の教育振興計画とか、あるいは高知県など他県の振興計画を見ても、実は小規模校、複式学級の子供たちの学力のほうが高いという統計もあるのです。にも関わらず大規模化して切磋琢磨、競争原理を働かせるというようなことが非常に幅を利かしている。どうも紫波町なんかもその上に乗っかってやっているのではないかということがわかってきました。

学校統廃合と小中一貫校

それからもう一点は、小中学校の一貫教育をやるにあたってよく使われる中１ギャップの解消とかもあるわけですが、どうも文科省とか、あるいは国立教育政策研究所とか国の機関、あるいは研究機関も含めてですが、いろいろ調べてみても中１ギャップだとか、学力向上だとかそういった理由の調査研究というのは国立教育政策研究所からの報告でも見受けられなくなっている。それ以上に現在問題になっているのは、小中一貫なんかの場合は、小学校教育が中学校教育の準備教育にされている。いわゆる下請けになっているということです。これは岩手県全体でも問題になっているのですが、幼児教育についても小学

校教育の下請け、準備教育としての幼児教育、架け橋とか言葉遣いはいろいろありますが、どうもそういうことがあって、中学校教育をベースにして小学校教育がある意味犠牲になるというようなことも心配されるということです。

こういったものを研究している方々の書いた出版物によれば、学力向上の効果は見出せないのではないかとか、あるいは子供の発達過程に歪みが生じている。例えば小学校 5、6 年生は、小学校では高学年の上級生になるわけですが、その子供たちが小中一貫教育になると上級生的な役割を果たせなくなる。中学生がいますので、よく小学校教育なんかで上級生 5、6 年生になるとリーダー的な役割を期待されたり、様々子供たちなりにいろんな発達課題と向き合うことが多いのですが、どうもそういう傾向が薄れてしまうということも報告されている。これを見ると小中一貫教育という見出しは、いろいろ中 1 キャップの問題だとか、学力向上とかいろいろ出されてはいるのですが、本当にそういうことが期待できるのかというのと同時に、小学生段階の発達が歪まされるのではないかというような報告も数多く出ているというのが実態のようです。

紫波町の学校統廃合

私が今述べてきたようなことはあらかた紫波町にも当てはまるのではないかということです。これはどうも議会の説明だとか、いろんなところで議論されたようなのですが、その記録とか文章をちょっと覗いてみても、今私が述べたような問題を正面から取り上げているということは、どうも紫波町ではないというのがある意味特徴です。だから、真面目な教育論議があったのかということをちょっと心配しているということです。

それからもうひとつは、紫波町教育委員会の紫波町小中一貫教育基本計画というのがあり、これは 2020 年に出されて策定されているようなのですが、よく読んでみたら、幼児教育 3 年、小学校 6 年、中学校 3 年の 12 年間の一貫教育というのをここで述べているのです。これを目指すというふうに述べているようです。その意味で紫波町の小中学校の統廃合の計画とか、あるいは小中一貫教育の構想というのはこれで終わりではなさそうだなと。今後の一貫教育、いわゆる幼児教育の 3 年間も含めて 12 年間の一貫教育構想が紫波町にあるようなのですが、この第一歩というふうに捉えておいた方がいいのではないかと。だから、小中一貫教育は 12 年の一貫教育を将来実現するための第一歩であるという位置づけではないかということです。この 12 年の一貫教育構想自体が果たしてどうなのかということが大問題だというふうに考えておくべきではないかと思っています。

どうもそういう点から言うと、こういった辺りも小中学校統廃合の背後にあるわけですが、この辺りについての議論とか意見交換とかも含めて、あるいは議会での説明もどうもこの辺りが不十分なまま、曖昧なままに進められてきているということがあるのではないかということです。これは行政当局、教育行政としてもどれぐらい情報公開とか説明責任を果たしているのかちょっと疑わざるを得ないなというふうにも思っています。

学校統廃合と住民自治

最後ですが、今日の発表と直接関わるのですが、学校統廃合は学校の行く末だけではな

くて、地域のまさに存亡興廃に関わる大問題だというのは従来から言われてきたわけです。皆さんもご存知だと思うのですが、文科省も地域に対して十分な説明と了承了解を得るということを統廃合を進めるにあたっての要点・条件にしているのです。紫波町の統廃合のプロセスをちょっと覗いてみると、この地域住民が学校統廃合の当事者、関係者としてあまり位置づけられているようには感じられないのです。だから地域への説明だとか、あるいは了解だとか、その辺りは一体どうだったのかということも今振り返ってみると問題があったのではないかというふうに思います。

学校統合問題はそういう点から見ても、地域のあり方に直接関わるという意味では、住民自治を考える上で重要な問題だということと同時に、今後の課題として今日も触れていただくかもしれませんが、地域の統合された学校の施設の活用だとか、それから地域にある社会教育施設、公民館等がその中心ですが、今後これと関わってどうなるのだろうかということです。いわゆる住民の学習の拠点としての役割も今後どれぐらい果たしていけることになるのか、この辺りも大きく我々は課題として考えておく必要があるなというふうに思っています。

ここまでが私たちがこれまで学習会、勉強会でこういうことがあったのではないか、あるいはこういうことを問題とすべきだったと、これからも取り上げていくべき課題ではないかというふうに感じている部分でございます。ちょっと長くなりましたが、これまでの勉強の経緯と成果についてご報告いたしました。

今日の報告について

今日はそれに関わって、まさに 2 年越しになりますが、まず一点は小中一貫校として紫波東学園というのが去年開校されました。小学校が 5 校あって紫波東小学校になった。紫波第二中学校は、もう既に昭和 35 年ぐらいに統合されていた。だから紫波第二中になったのは相当古いとは言えるのですが、今回はその紫波第二中学校と紫波東小学校を同一施設内に作って、紫波東学園として小中一貫校にするということで現在進められているということになります。この点に関わって蒲生さんには保護者の目から見て、あるいは子供たちの状況からこの統廃合がもたらしているものは何だろうか、どんな問題があるのか、あるいは今後考えられるのかということも含めてお話いただきます。

そのあと先ほど私がちょっと説明したように地域との関係ですね。地域の住民自治とか地域の今後の維持・発展に関わって、この統廃合がどんな問題をもたらしているのか、あるいは今後あり得るのか。これは、佐比内公民館の館長である高橋さんにお話をいただきます。それぞれ大体 30 分以内ぐらいでお話をいただいて、あとは皆さんと一緒に論議を交わしていきたいというふうに思います。では、お二人にご報告よろしくお願いします。最初に報告 1 の紫波東学園の佐比内地区の保護者であります蒲生さんにお願いいたします。

「学校統廃合で子どもたちはどうなったか」

紫波東学園佐比内地区保護者　蒲生麻衣子さん

自己紹介

皆さんおはようございます。蒲生麻衣子と申します。苗字は違うのですが、私の家はサザエさんなのです。私がサザエで父親が波平に当たります。父親と一緒に同居をしているので、父親家族と私たち夫婦と子供たちが 4 人います。そして保護犬を飼っているという家族構成になります。話のプロではないので聞き苦しいところがあるかなとは思います。諸先輩方に対してお話をさせていただくので偉そうなことを言っていると思われるかもしれないのですが、耳を貸していただけるとありがたいなと思います。

私は、県内の高校を卒業し、宮城の大学に進学し、福島県で就職しました。その後、結婚、出産をし長子が小学１年生に上がるというタイミングで、どこで子育てをするかということを夫と話したところ、岩手に戻ってきて子育てした方がいいのかなということで、戻ってきてサザエさんの生活が始まったのです。

夫は実家のぶどう園を継いで、新規就農という形を取って就農をしています。田んぼは父親がやっています。私はパート勤務をしながら、農家の繁忙期はぶどうの手伝いをしています。

小規模校の佐比内小学校

私は佐比内小学校に子供たちを通わせていました。私自身も父親も佐比内小学校に通って卒業しました。皆さん、実際に複式学級とか 1 クラス 5 人以下という学校の様子を見たことはありますか？先生になったりとか、実際に見たり保護者として関わったりしたというのは、こちらにいらっしゃる方にはイメージないようですね。イメージがつくかつかないのかで話の仕方は違うのではないのかなというところがあってちょっと聞いてみました。私の小学生の時は、1 クラス 21 人だったのですが、大体１クラス 20 人弱でどんどん人が減っていって、私が 6 年生だった時の１年生の子は 16 人と徐々に減っていきました。こっちに戻ってきて長男が入った時は、長男のクラスは 8 人でした。8 人で男子が 7 人、女子が１人でしたので、男子が多かったから長男は別に気にならない感じだったかもしれないですが、逆の立場だったら悩んだだろうなと思います。8 人のうち、わが家を含めて２人の児童が親の実家に小学校に進級するタイミングで戻ってきたようです。

小規模校のメリット

小規模校の佐比内小学校には、長男が６年間、長女が３年間通いました。メリットとして挙げられることとしては、学年を超えての授業になるので予習・復習は日常的に行っていたのかなと思います。長男は 1 年生、2 年生の時は複式学級ではなくて、3 年生の時から 3－4 年、5－6 年が複式学級という形でした。そうなると 3－4 年の時期と、5－6 年の時期は複式学級だったので、一人の先生がこっちが 3 年生、こっちが 4 年生という感じで教室を横に２つの島に分けて、授業をしていました。なので、すごく先生は大変だなという感じはしています。ただ、子供たちは頭もいいので、3 年生は 4 年生の授業をしているとき

は耳で聞いているのですよね。漢字の書き取りとか、算数をやったりしているのだけれども、入ってくる情報はいろんな情報が入ってくる。4 年生にとっては 3 年生の復習もしているのかなというふうに私は見て感じました。

どんなに消極的な人でも絶対に自分の考えを発表する機会が出てきます。絶対に壇上に上がってきます。私は学校公開ですごく楽しかったのが、冬休み・夏休みの研究発表です。保護者も来ていいですと言われるので私は楽しみにして行っていました。どんなに消極的な子もどういうふうに考えてこの工作を作ったかを大体 5 分ぐらいでプレゼンをしているのです。質問をしたりとか、それに対して答えたり、近くまで寄ってきて発表内容を見るということをしていたので、誰かにモノを伝えるということを得る機会が多いということは大人になっても大事なことだなと感じていました。

あとは、学年を超えての活動に取り組むので異年齢の交流ができていたと思います。それから地域の学校という特色が強かったので、親の顔も知っている、爺ちゃん婆ちゃんの顔も知っているということがあるので、個人情報の観点から言ったら、いいのか悪いのか正直わからないところです。

小規模校のデメリット

デメリットとして客観的に見たときに、チームスポーツはできなかったと思います。長女は同級生 4 人しかいません。女子 3 人の男子 1 人で、うちは人数が多い方の性別に入っていたのですが、１人だけだったら考えるところはあっただろうなと感じました。

メリットともデメリットともつかないのは、友人関係がすごく家族に近くなることだなと思います。ちょっと友人とギクシャクしても他の友達と仲良くなるということはできないので、ギクシャクを解消して関係を改善していくことしかできないかなと思います。それは心理的にいいのか悪いのかちょっとわからない。成長具合によってよくわからないのですが、社会人になってちょっと当たりの強い先輩に当たって、どういうふうにしていくかということはいっぱいあるような気がするので、小さい組織の中でギクシャクをうまく解消改善していくスキルは、どういう面においても必要だと感じています。

不登校は無かった

長男は佐比内小学校を卒業して紫波第二中学校へ、次女は佐比内小学校に 3 年間通って佐比内小学校が閉校になったので、通算 7 年間子どもたちを佐比内小学校に通わせたのですが、不登校はいませんでした。明らかなイジメと認定される事象は見受けられなかったかなと思います。

学校統廃合に対する不安

２年前このレジメを書いたときは統合する前だったので、まだ新しい学校が始まっていないときの不安についてお伝えをしていくと、小中一貫校とは何？というふうに一番はすごく思いました。どの人たちもそうだと思うのですが、私たちや私たち上世代は親が小学校を卒業して中学校に行って、それぞれ卒業しているのでイメージできるのですが、小中一貫校のイメージは誰も持っていなかったのですね。今も誰も持ってないと思います。

小学１年生にわかる話と、中学１年生にわかる話を校長がしているのかということに関しては、うちの小中一貫校に関しては校長先生が一人しかいません。なので、校長先生が一人しかいなくて、小学校１年生と中学校 3 年生に対しての物言いはやっぱり違うのではないかなと想像してはいました。ただ、入学式や卒業式等の行事は別々という形なので、先生もそれに合わせて対応されているのかなと思います。副校長先生がそれぞれ一人ずつ小学校一人、中学校に一人という形になっているので、形式的には副校長先生が二足のわらじを履いているのかなというふうな感じはします。

紫波町としてちょっと私が未だによくわからないのは、学園方式のことです。紫波西も 3 校統合して、紫波東に関しては 5 校を統合したのですが、紫波東学園紫波東小学校と紫波第二中学校というふうな冠になっています。なので、その当時は紫波東学園に通うの？紫波東小学校に通うの？というふうに聞かれて、何と答えたらいいのか大人はわかりません。未だにわからないのですが、私立なんとか法人、なんとか学園とかだったらわかるのですけど、紫波東学園という概念は何なんだろうと言われるとわからないなというところはあります。

スクールバスについて

あとは登校に関する不安なのです。子どもがバスに乗っている時間が 30 分以内に収まるような経路で 5 か所からバスが出ています。なので、すごく広いエリアの中を紫波東の中では走っているという感じです。１年生はバスに 30 分以上乗るのだと、トイレに行きたいと言うのではないかとか、酔うのではないかという心配があったのですが、うちは発着点で乗っているのですけど、大体 20 分ぐらいで来てくれます。わりとバスの運転手さんも優しいので子供たちに対して声がけをしてくれたりして、安全にみんなが降りたら出発するということになっています。

スクールバスは朝 1 便なのですが、帰りは最大で 4 便か 5 便出ます。というのも小学校１年生と中学校 3 年生だと帰る時間が違うので、同じバスの運転手さんが１時間に１本ぐらいの便で出してくれます。中学校になると定期テストもあるので、昼で終わりだという感じの時は昼も出してくれるので、そうなってくると 5 便出ているのです。そのバス１台に乗っているのは５人とか、５人ずつの５便出るみたいな感じになっているので、バスの運転手さんは大変だなと思いながら、ありがたいなと思っています。なので、バスに関する不安に関しては、よく考えてくれたのだろうなとか、バスの運転手さんが良くてよかったなという感じはしています。

うちはバスの停留所まで 1.4 キロぐらいあります。学区で熊が出没した情報が寄せられると、バス停まで送迎をお願いしますと学校から連絡が来ます。熊の目撃情報が無くとも、熊は確実に近所に住んでいるので、結果いつもバス停まで車で送っています。生活するのに大変だなという感じは正直しますが、それは両親に協力していただきながらなのでありがたいなと思っています。

コロナ下の学校

あと新設校はコロナ前に計画されていた状況だったので、コロナが発生してからどんな対応をするのかなと感じていました。授業参観とかで新しい学校を見たりするのですが、コロナ禍の中ですごくガンガンと暖房をつけていて、窓を開けているという感じだなと思いました。よかったと思うのは、冷房は効いていたので暑い夏の中でも何となく快適、ガンガンとかけているというわけではなくて、やっぱり設備としては良い設備なのかもしれないのですが、体が冷えない程度の空調は効いているような感じが廊下の中でもしました。

チャイムについて

小学生と中学生の１時間の設定時間が 45 分と 50 分で違うので、中学生の定期テストの時うるさいのではないのかなと思っていましたが、うるさいと思います。今私の長男は中 3 になったので、中 3 になると進路説明会とかでしょっちゅう話を聞きに行ったりするのですが、一番端っこの音楽教室でお話を聞いたりしていても、小学生の声は元気なので聞こえてきます。それは、いいのか悪いのかはちょっとわからない。私は気になるという人は気になるのではないのという感じは正直します。

チャイムは鳴ってないそうです。チャイムは 2 時間目と 3 時間目の間は鳴らないけれども、何かの時の定刻の時間、お昼休憩の時は鳴ったりとか、一番最初の始業の時間と終わりの時間だけ鳴るような感じになっているようです。

住民説明会について

先ほどちょっと話もあったのですが、住民に対する説明会に関しては説明会が恐ろしく少なくて、それはコロナ禍ということも言い訳にして行っていないという状況だったのかなと思います。紫波東学園の説明会に関しては、令和 3 年 10 月 20 日と、令和 4 年 2 月 9 日の 2 回だけです。世帯で一人だけに限定するということだったので、私は夫と同じ話を聞きたいし、親世代も話は聞きたいと思っていたと思うのですが、８人家族でも１人しか話は聞けません。住民の周知に関してはすごくよくないと思いました。例えば小学１年生から４年生までが１８時から１９時まで、５年生から中学３年生までが１９時３０分から２０時３０分までの１時間という設定で超過は不可能です。子どもが複数人いても参加できるのは１回きり。１時間では最初から質問を受けないことを想定しているのでしょう。新しいことをするのに説明は不十分であったというふうに判断するしかないかなと思います。

地域住民にはもちろん全く周知されていません。どんな学校ができるのかということを子供がいないお爺ちゃんお婆ちゃんは全く知らない状況で統廃合が行われたという感じはします。地域住民の理解を深めずしてコミュニティスクールはあり得るのかなという疑問は未だに残っています。今までは子供がいない世帯でもお爺ちゃんお婆ちゃんにスクールガードをしてもらったりとか、そういったこともしていただいていたのですが、周知されていないのにスクールガードのボランティアを募集しますと言っても、誰がボランティアに参加できるのかという感じが正直します。それは学校に対しての問題ではなくて、教育委員会に対しての不満だと私は感じているのですが、ほかの人はそういうことを学校がよ

くないというふうに思ってしまうのではないかなと正直思います。学校の先生たちは頑張っているところはすごく頑張ってくださっていると思うのですが、設置の方向は全くよくなかったなという感じは未だにします。

納得いかない教育委員会の対応

私自身は説明会が少ないことに不安を感じて、その当時の 11 月から学務課に質問を投げかけていて、すごくいっぱい文章を書いたりしていたのですが、紫波東学園のガイドブックを鋭意作成中であり、ガイドブックにこういった細かいことは掲載するので新年度に配布しますというふうに言われました。ガイドブックの暫定版を 2 月に配布され、4 月に作成されたものを出されたのですが、私はガイドブックが欲しいのではなくて、どういうことを考えて学校を作ったのかという心意気を知りたい、実際に通うとなったらどういうところに気をつけるか、こういうコンセプトでこの学校を立ち上げたのだということを周知してほしいということも強く思っていたので、教育委員会との折り合いはつかなく、思いは届いていないというふうな感じはします。

普通、商品を買う時でも多角的に情報を集めて、口コミいいなとかで私たちは物を買うのに、買うか買わないか判断するのに始まってから情報開示しますというのはおかしいのではないかなと。しかも子供たちの成長に関することなので、物ですらない、それはもっと大切で価値のあることなのに、そういったことに労力を払っていないというのは、ちょっと納得ができていません。

地域に根差した教育を

小学校がこういうふうになったらいいなと思っていたこと、実際こうなっていますということをちょっと交えながらお伝えすると、川東地区は大体 3 世代同居がほとんどです。身近な人が認知症を発症する可能性がすごく高くなるのではないかなと思っていて、紫波町の隣の矢巾町では認知症のサポーターの講習を小学校 4 年生、中学校 2 年生で行っているそうで、同じように行ってほしいなと思っていました。子供に話を聞いたら小学校 4 年生の時にオレンジリボンというか、認知症サポーター、認知症に対しての授業が多少あるという話はしていました。

あと佐比内地区は江戸時代に隠れキリシタン、金山の発掘が行われて、昭和の終わりに金山太鼓の取り組みが始まって、ぶどうの生産や産直の取り組みも盛んと言われていますが、自分が住んでいる地域でなんでこの果物を生産しているのかであったり、産直活動の取り組みはどうして行われ始めたのということなど、身近な地域の歴史を知らずにいることが正直多いなと思っています。小学校低学年の総合的な学習の時間で身近な近現代史を学び、自分たちの親が行っていることや地域のルーツを知ることは有益だなと思っています。

佐比内小学校にいた時は 396 号線を歩いて産直に行ったりしていましたが、なんでここが流行ったのかとか、何が問題かなということは目にしたりすることがないと考えるきっかけにもならないのかなとは思います。バスで 20 分かけて紫波東小学校に行っているので、

各地区に産直とかあるのですが、親の出荷と一緒に行ったことはあるけれども、子供たち同士で行ったりすることはないなと思います。そういうのはちょっともったいないなという感じはします。

基本的な学力をすべての子どもたちに

中学校１年生の当時の長男の成績通知表を見ると、学年の平均点が 50～60 点で低いなというふうには感じていました。数学であれば小学校高学年から理解できてないと点数は取れないと思います。小中一貫校では理解を深める取り組みができるのかなというふうに感じていましたが、今中 3 なのですが、努力してないから点数は悪いと思うのですけど、他のお母さんの話を聞くと、結構数学の先生が難しい話をすると話をしています。ただ、小学校で授業の内容がわかってなかったら中学校で難易度が高いことを言われたって絶対にわからない。

小規模校でよかったなと思うのは、みんなが 50～60 点取れる、例えば子供が 8 人いたら 80 点が 8 人ではなくて、50～60 点取れる子が多かったのかなというふうに感じています。ただ、人数が多くなってくると 80 点取れる人が 10 人いて、20 人ぐらいが 50 点以下で平均点が 60 点というふうになってきているのではないかなと。平均点はほとんどいなくて下の子たちが多くなっているのではないかなというふうに思います。それはすごくよくないことで、働くにあたっても基本的に何かを教わって考えて動くということができないと、やっぱり何をするにしてもその人はすごく苦労をしてしまう。その人にとっての努力というより苦労することになってしまう。基本的な学力とか考える力というのは、やっぱり小中で培われると思うので、難易度の高いものではなくて、みんながわかる考える力をもうちょっと底上げして伸ばしていけたらいいのではないかなと思っています。

新学校に望むこと

開校 3 年ぐらいは小規模校ではできなかったことを徹底的にやって、失敗したら改善をして次の年度に生かすということをしてほしいなと当時思っていました。なので、パンフレットが欲しいわけではなくて、子供たちが笑顔で小学校に通う日常が欲しいなと思っています。子供たちは話を聞いていないようで聞いているので、少子化や子供の人数がいないというニュースを聞いて生きています。大人が子供たちに希望を感じて子供は宝だというふうに言っているのですが、子供たちは未来に希望を抱けているのかと一番は感じてしまいます。東部地区に住んでいるからこそのカリキュラムがあったらいいのではないかなと。例えばドローンを自分でプログラミングして田園風景や畑の様子を映像化したり、どれだけ鹿が住んでいるのかとか、タヌキが出てきたなというようなことを自分たちの目でできることがあるのではないかなと思います。小中一貫校だからできることをやってほしいなと思っています。

このレジメを書いていたのは開校する直前のことだったので、実際開校したのが 2022 年 4 月です。3 番目が小学校に上がるタイミングで開校をしたのですが、開校当時最初の 1 年生は 19 人でした。人数が少なくて 5 校集まったとしても 19 人なのですが、そのうち 5 人

がコロナにかかって入学式は 14 人でやったそうです。うちの 3 番目もコロナにかかっていたので入学式には行けなかったです。なので、スタートは結構大変な感じだったなと思うのですが、始まって学校行きたくないということは言ってないので、それはありがたいなと思います。

引渡し訓練

学校の先生たちも異動があるので様々だろうなと思うのですが、開校 1 年目でできなかったこととしては、引き渡し訓練はできなかったです。やらないのだと思っていたのですが、2 年目の今年は引き渡し訓練を行いました。紫波東学園は川べりにあるので、正直川が氾濫したらどうなるのだということを教育委員会にいつも言っていたのですが、そこは沈まない立地だから大丈夫だと言うのですけど、そこに行くまでの道は沈むので車でどうやって迎えに行くのだろうと疑問は未だに残っています。しかも狭い道なので引き渡し訓練を実施したところ、みんな車で迎えに行って、しかも雨だったのですごく渋滞したそうです。そりゃそうだよなと思っていたのですが、例えば地域の駐在さんが協力して、このくらい渋滞が 1 時間発生したので、さらに細い道の農道を行ってほしいとか、実際どうすべきなのかはわかりませんが、もし災害が起こったらこういうことが想定されるということをじっくり考える良い機会にはなったかなと思ったので、引き渡し訓練をやらないよりやった方が絶対よかったなと思っています。次に繋がるためには何かを改善しなければいけないのではないかなと思うのですが、それは PTA と教員の方、正直言うと紫波の教育委員会もちゃんと本腰入れて考えてほしいという感じはします。安全に子どもたちを引き渡せないと命は失われていくのではないかなと感じています。

学習発表会

あと開校 2 年目の学習発表会も見に行ったのですが、今までは小規模校だったのでものすごく面白い学習発表会だったんだなと今になると思います。というのも新しい学校では劇とかは未だにやっていなくて、群読をやるだけとか、ちょっと正直大人が聞いていても眠くなってしまうような感じがするのです。今までの学習発表会だと各地区の歴史を感じさせる劇を 6 年生はやるとか、あと太鼓の発表が必ずうちではあったとか、地区を交えての脚本を先生たちも考えてくれたりして、すごい先生たちは大変なことをやってくれていたのだなと感じています。それは地区との繋がりが密だったから発想も出てきたと思いますが、それをもう全く地区との繋がりがなくて、新しい先生たちにやれというのはちょっと酷な話です。どういうふうにやっていったら一番いいのか、地域のことも子供たちのこともわかってやっていけるようにということをもうちょっと考えなければいけないし、もう完全に地域の学校ということからは今離れているので、教育委員会はその現実をしっかり見た方がいいなと感じています。

おわりに

最後に当時の私が書いていたことは、子供たちが学校に楽しいと思って通ってもらえるのが一番だなとつくづく思っていました。コロナが発生してちょっと具合悪かったら休ん

でもいいという感じにはなっているのですが、やっぱり子供たちは子供たちと一緒に遊んでこそ楽しいと思えるのではないかなというところが基本なので、元気に通っていることが一番だなと。そのために大人が必ずやらなければいけないのは、安全に通えなくてはいけないし、どういうふうな学校にするべきなのかということは大人が考えなければいけないのかなと思っています。なので、設置者である紫波町は責任を持ってほしいと感じました。少なくとも私は今次男が年中さんになったので、中学校を卒業するまでまだまだ長いです。大体の保護者は 2 人兄弟がいたりすると、4 年ぐらいのスパンでしかいないと思うのですが、私はとても長くて 20 年ぐらい保護者をやらなければいけないので、責任は大きくなっていくなと思っています。統廃合する前の時からいる保護者だったので、教育委員会が悪いというわけではないと思うのですが、それは調整が悪いのかどうかわからないですが、準備は不十分だったしコロナを言い訳にして周知は十分されていない状態でスタートしている船だというふうに感じています。

準備しすぎても、いざ開校したら足りないことも出てくると思うのですが、そもそもの準備が十分できてないので、その当時は不安でしかないなと思っていました。始まってしまえば子供たちはその船に乗っていればそれ以上のことも知らないし、私たちだってそれ以上か、それ以下かわからない。比較することがないのでできないのですが、今子供たちに関してはニコニコ通っているのはいいなと思っています。ただ、休んでいる子が多くなってきているとか、中学生でもちょっと不登校になっているという子もいたりするのは、もうちょっと考えた方がいいのではないのと思ったりはします。自分の子が元気に通っているからいいという感じでは正直なくて、やっぱりどの子たちもちょっと行きたくないなという理由は少しでも減る方がいいなと思ったりしているのが今感じているところです。以上です。

「小学校がなくなった地区の現状とこれから」

佐比内公民館長　高橋昭博さん

紫波町学校跡地活用基本方針

皆さんおはようございます。佐比内公民館長の高橋です。先ほど新妻先生の方からお話があったように、紫波町の教育方針があるのと同じように、この学校統合をやる上で学校跡地活用基本方針というのが令和 3 年 3 月に作られました。紫波町は北上川を挟んで西部と東部というふうに東西に長い町です。令和 3 年 3 月には西部地区 3 つの小学校が統合して 2 つの学校が閉校になっている。それから次の年の 3 月に東部地区、私たちの佐比内小学校も入っていますが、5 つの小学校が統合して 5 つが閉校になったということになっています。基本方針は、『町民の資産である町有地を活用して、財政負担を最小限に抑えながら、民間等の連携により、7 つの空き校舎等を生かしてそれぞれの地区を「暮らし心地の良いまち」にしていくことを目指す』と書いています。この「暮らし心地の良いまち」というのを目指すために、財政負担を最小限に抑えて民間等の連携というのは、民間に丸

投げして暮らし心地の良いまちにするというふうなことですね。とんでもない話です。

学校跡地それぞれの現状

（旧上平沢小学校）

学校跡地それぞれの現状ですが、西部地区の方から行くと、旧上平沢小学校というのがそのまま校舎を使って西の杜小学校となっています。紫波第三中学校と隣接しているのですが、そこと校舎は別々だけども小中一貫校ということです。紫波西学園の校舎でもあるということです。何だか訳がわからないですね。

それから、びっくりしたのは 2 年経ったら教室が不足したという、あり得ないと思うのです。子供たちの人数は大体わかっているわけで、2 クラスにしないといけない学年ができたということです。それで教室ではないところを教室に使っているというので、子供たちを舐めてるのかと思います。さっき蒲生麻衣子さんが言っているように教育委員会は何をしているのだというふうな気持ちがあります。

（旧水分小学校）

それぞれの学校がどういうふうに地域で使われるかということなのですが、旧水分小学校というところは、『紫波町推進ビジョンで示す酒のまち紫波として目指す未来の姿「酒と共にある暮らしを大人も子どもも愉しむまちをつくる～おもしろい！が止まらない。酒のまち紫波」の実現に向けて、「酒の学校」として活用する』と書いている。『活用は民間事業者に貸付することを前提として、酒の学校の整備及び運営は民間事業者の主体的な関与を想定。募集し、事業者特定する。事業推進のため、地域づくりは推進員(会計年度職員)を 2023 年度から雇用した。地域の合意形成はこれから』ということです。

地域づくり推進員というのは佐比内にもあるのですが、佐比内から小学校を取り上げてこれから高齢化も進んでいく、子供も少なくなっていく地域をどうするつもりだと言っていたら、それを何とかするために地域づくり推進員という会計年度職員を作るからということで、2 年前に私たちのところから始まったのです。そういう意味で配置する地域づくり推進員ですが、酒づくりの学校のことでやるというのは、それはちょっと違うのではないかと教育委員会に言ったら、企画課の方でやっているのですが、言われればその通りだと思うと、そういう話を企画課の職員が言っていました。地域づくり推進員は地域の人たちとの合意形成を図るために配置するのであって、「酒の学校づくり」をやるというは、ちょっと違うと思うのです。

（旧片寄小学校）

それから旧片寄小学校ですが、ここにも書いてありますが、『サウンディング(民間対話)型市場調査を行い、市場性や活用アイデアの実現可能性を検討し、「ローカル(地域)カルチャー」をキーワードに、エネルギー分野やデジタル分野などの他分野との掛け合わせによるこれからの農産物の形を示しながら、若者をはじめとする多くの人が見ることができ、農業への関心を醸成し、農業者の創出・育成などにつながる拠点とするために活用する。』ちょっと読んでいてわからなかったですね。それから『民間事業者への貸付による

活用を予定している。』

学校がそのまま残っているのですが、草がボーボーになったり、人がいなくなるとどんどん建物はいかれてくるのだけれども、地元の人たちも我慢できなくてみんなで出て草刈りしたり、いろいろ整備もしたのです。だけど、なかなかどういうふうに使うかはっきりしなかった。水分小学校は活用実施方針が 22 年 8 月末となっていますが、ここは 23 年の今年 10 月にやっとできたのです。そんな感じで地区ごとによってこういうふうにしますというのがまだまだ足並みが揃っていないということを知ってもらいたいです。

（旧長岡小学校）

東部地区ですが、これは方針ができた早いものから順に挙げてあります。旧長岡小学校という一番盛岡寄りの方の小学校なのですが、『紫波町は「未来の地方創生を担うリーダーを育成する」をビジョンとして掲げ、長岡小学校跡地を活用した教育事業「ノウルプロジェクト」に取り組む。実地と通信のハイブリッド型高校。ビジネスの実践を通し、地方創生に必要な知識や技能を学ぶことができる。』というふうになっています。『21 年 11 月 1 日に取り組みの迅速かつ円滑な推進のため、紫波町と(株)オガール、吉本興業ホールディングス(株)の三者による包括連携協定が取り交わされた。運営は、(株)オガールと岡崎建設(株)、吉本興業ホールディングス(株)の三社が設立した「(株)吉本・オガール地方創生アカデミー」が担う。』ということなのです。この時に 2023 年 4 月開校を目指すと 21 年 11 月に書いてあるのですが、2023 年 4 月はもう過ぎましたが遅れているそうです。

そういうことにしてしまったから運動会もできない。その学校跡地はどこも使えない。そういう状態で地区民は捨てられたんだなみたいな感じになっていました。そういうふうになるのではないか、困ることになるのではないかと言ったら、教育委員会の企画課では、紫波町総合体育館もあるし、運動公園もあるから借りればいいのだと。借りればいいって空いてなかったらと言ったら、空いているときに使えばいいと訳のわからない話をしていました。全くよその町のような話です。ここが一番先に決まったから、21 年 4 月に実施方針が出たからそのまま転がっていくのだろうなと思ったらそうじゃない。全てが民間任せだとこういうふうになる。民間の方だって何を考えているかわからないけども、民間の緊急度の順位の中にはここはそんなに入っていなかったということだと思います。

（旧彦部小学校）

それから旧彦部小学校、この実施方針は素案のため未制定でした。ただ、こういう流れになっています。『お試しとして施設の短期間の貸出したトライアルサウディングの結果を基に、スポーツとエンターテイメントを核とした学びにより、それらを通じて人も地域も「おがる」拠点とするために活用することを方針とする。』。地元住民との意見交換等の結果を踏まえて活用事業者の公募を行うというところまでになっています。確かに施設をそういうふうに貸し出しますと言って、バスケットボールをやる団体とかが来て使ってみたりして、それでスポーツとエンターテイメントという形になったようです。今これからだということであります。

（旧星山小学校）

それから旧星山小学校、これも書いてある通りですが、『町の課題である保育の待機児童解消のため、心豊かな育ちを実現する就学前教育を展開する保育所を整備・運営する事業提案の募集を行い、2022 年 11 月に優先交渉権者を決定した。』。先ほど新妻先生がおっしゃったようなことが、これからよろしくない方に向かう一つのあれかなとさっき話を聞いていて思いました。『2023 年 6 月 28 日町は、優先交渉権者である「(株)みんなのみらい計画」と賃貸借契約を締結した。』というふうなことがニュースで出ていたという段階です。星山小学校は早くから保育所にすると、いま川東の方では保育所というのは佐比内保育所しかなかったのです。あとは彦部児童館、長岡児童館、赤沢児童館という児童館しかなかったのです。児童館 3 つと保育所が 1 つでした。それで佐比内保育所はそのまま残っていますが、3 つの児童館はなくなってというか、使わないようにしていて、彦部児童館に紫波東保育所という仮の形を借りて、でも児童館だから調理室がないわけです。佐比内保育所の調理室を使って、そこで作ったものを紫波東保育所に配っているという形です。だから、そこでやっていることを星山小学校跡地の方に移設するというふうな考えのようです。

（旧赤沢小学校）

旧赤沢小学校は未だに何も見当たりません。地元の方でもどうしてくれるのだというふうな感じですが、旧赤沢小学校は確か校舎が 3 階建てなのです。グランドも広いし、使い勝手が本当はいいところだけど、3 階建てで小学校の校舎だといろんなものの規定に合わないのだそうです。子供たちが使う 3 階建てだから、一般の大人たちが入ってやるような 3 階建ての高さから何からちょっと合わないのだというので非常に困っているみたいな話です。

（旧佐比内小学校）

それから佐比内小学校ですが、ここも実は方針は早かった。『2021 年 2 月、町はいち早く、現在の佐比内公民館は、危険箇所に指定されていることから校舎跡地に移転する。』実際川のすぐそばにあって床下浸水、床上浸水を 1 回ずつやっているところで、さらに山が近くなので土砂崩れになるという県からの危険区域に指定されたものだから、ドキドキしながらいつも仕事をしましたが、さらに公民館だけでは使えないから『公民館以外の箇所は民間事業者等に貸し出したい』という方針を発表したのです。

その時に私たちにも説明があって、どういうふうにすれば使い勝手がよくなるかという話もあった。でもそういう話をされたあとに、公民館を活用する人たちは女性の方々と高齢者が多いのです。その小学校は急な坂道を上がらないと校舎に行けないのです。車でも、歩いても行けるわけだけど、とくに冬期間は怖いなという話が公民館を使用している人たちから言われて、それを町に伝えたのです。例えば授業参観を見に行っても、それは授業参観のための目で見に行っている。しかし、この建物を公民館かそれ以外のものに使うという目で見てないでしょと。高台にあるということも含めて、どういうふうに使い勝手が

いいかというのを見なければダメじゃないかと私は何回も言ったのです。学校跡地に公民館をやると言ったときにね。

そういうふうなことを言っていたら、さらに下には保育所もあるし、そういうところも全部含めて見た方がいいのではないかということになって、学校跡地見学会をやったのですが、実は学校がまだ終わらないうちにそういうふうにしたらどうだとなって、夏休みにやるか冬休みやるかと言っているうちに見学会が全然できなくて、さらに閉校してしまったあと 2022 年 7 月 31 日だったのですが、学校跡地と学校周辺にある保育所や保育所の敷地内にある高齢者利用施設の活用も含めて説明したうえで見学会を午前と午後の 2 回だけやったのです。アンケートもやったら、やっぱりちょっとここは使い勝手がよくないのではないかということになったのです。

それを受けて教育委員会は遅まきながら検討委員会を作るとなったのですが、それが2023年2月、教育委員会が佐比内地区から10名ほど人選して、公民館移転検討委員会を設置したのです。3 つほど候補地を挙げたりしたのですが、最終的には今年 7 月に佐比内小学校のグランドの敷地の中にやりましょうというふうなことを決定したところです。2026年度中に公民館を移転するというのがその時の話だったのですが、なんか伸びそうです。これよりも2年ほど伸びて移転できる形になるのというのも小耳に挟んでいます。

そうなると小学校跡地をどうするのかということになりますが、これは全くこれからなのです。地域の話を汲んでくれ、佐比内がどういうふうになっていくかということを今地域ではやっているので、そのことも含めて学校跡地をどういうふうに使うかということを検討してほしいと、そういう要望をしているところです。

小学校がなくなって地域は寂しい

小学校がなくなって私の方から見ると、集団登校とか子供たちを目の当たりにすることがなくなって寂しい、子供たちの声が聞けなくなってしまいましたから。運動会、学習発表会もコロナでなかなか学校公開ができなかったというのもあったりして、それでも先生たちは小学校がなくなってしまう最後の時は頑張ってオープンにしたのです。コロナが怖いというのもあったけれども、やっぱりそういうのじゃダメだよねというふうなことで、最後の運動会はみんな入ったし、発表会もみんなに通知を出してもいいということにしてやりました。そういう時間がなくなってしまうのです。公民館とすれば公民館まつりなんかの時に小学校からも佐比内地区の子供たちの作品・書道とか展示してお借りするようにやったし、保育所の子供たちの物も展示したりして、そういう活動をやっているということで繋がるようなことはしていますが限界があります。

先生方も手探り

それから、2022 年 5 月に教振がなくなったことによって、紫波東学園に「学校運営協議会」が設置されました。その中には私と赤沢公民館の館長と 2 人が運営委員に入っているのですが、去年、今年とやってみて思うのは、先生方は手探りなのです。当たり前ですよね。初めてのことでこっちも手探りですが、そうやって 1 年通してなんだか何もできない

ような感じで今年になってわかったのは、先生たちはやっと子供たちが通っているところの地区でそれぞれこういうふうなことがあるのだということがやっと見えてきたようなのです。それぐらいやっぱり時間はかかります。守備範囲が広くなっているわけですから。そして、好きなことを勝手にこっちは佐比内ではこうだったとか言うから、受け入れる余裕がなかったのだと思います。一年目にも二年目にも同じことを言って、やっと金山があって隠れキリシタンがいたとすればそれは大事だよね、それを聞かせるようなことがあってもいいよねと、この前やっと言ってくれたのです。佐比内だけでなく、いろんなところにいろんな歴史があるはずだから、そういうのもいいんじゃないのと話はしたのですが、そういうふうなことを話し合っているということです。

佐比内地域学校協働連絡会とその活動

地区とすればそれぞれの小学校がなくなったことによって、佐比内地区と紫波東学園が連携するために教振のような感じで「佐比内地域学校協働連絡会」というのを公民館で作りました。今までのメンバーも地域の人たちも入れて、とにかく子供たちと繋がり合いを持てるようなことを地区ではやっています。

今年やったのは、いつもやっているようなピカリン農園でさつまいもとか金山祭の参加とかやってきたのですが、金山祭というのは 8 月 14 日に佐比内のサイクルパークというところを会場にして今回はやりました。今までは佐比内小学校のグランドでやっていましたが、コロナでできない、あるいは外でやるものだから雨降りでできないというのが 3 年あって、4 年ぶりにやりました。山口太鼓を宮古からも呼んだのですが、外国人の方も太鼓を叩いていました。佐比内では小学生、中学生もずっと太鼓を叩いてきたけれども、3 年のブランクがあったから祭りをちょっと忘れてしまっているというか、初めてのような感覚で子供たちも加わったわけです。小学生だった子供たちが中学 3 年生になっているということですから。

そしたら中学 3 年生の子供が自分の主張というものに書いていて、佐比内出身の子供ですけども、あんな山の中に人がいっぱい集まって感動した、そして自分たちも一緒になって太鼓を叩いたと。さっき言ったようにうちのお父さんも福島から来たのですが、彼の家は長野からこっちに来て、やっぱりぶどうをやっているのですが、彼はこう言っていました。「自分はお父さんの家業を継ぐかどうかわからないけれど、でも佐比内が好きだ、地域が好きだから、家族が好きだから家族の面倒はみたいと思っているし、地域も好きだから地域の面倒もみなければならないというふうに思っている、できれば近くのところに就職して、そういうふうにできればいいな」ということを書いてくれた。私は涙が出るくらい嬉しくてね。地域づくりをやっていて、子供たち捨てたもんじゃないなと本当に思いましたが、それは佐比内の私も含めた地域住民たちが一生懸命やってきていることをやっぱり見てくれているからかなと思ったりしています。

（佐比内のこれから）

小学校がなくなった佐比内のこれからということですが、公民館がない時代から、何か

をやると言うと小学校にみんなが集まったりしてやっていたので、小学校は地区民のよりどころだったのです。お城だったのです。これからは公民館がその役割をしていかなければならないのだろうなと思っています。

それから、たった1年間で30人減少しているのです。1000人超えていたところが何年か前からか900人台で、間もなく900人も切ろうとしているという地区民なのです。そういう中でやっぱり子供たちは地区の宝だからね。1年生は佐比内の子供たち4人しかいないようだし、地区民全体で子供たちを育てるようなことをやっていかなければならないというふうに思っています。地区民が無理なく取り組めることを行って、みんなで小さな幸せを見つけ佐比内を地区内外に発信していきたいなというふうに思っています。ご清聴ありがとうございました。

新妻先生

今お話いただいたように学校は地域のお城であり、子供たちは宝、その宝とお城はどうなったみたいな話なのですが、お二人からお話いただいたように、子供たち自身は非常に適応力がありますので、いつの時代もその状況に適応していくということはそんなに難しいことではない。ただ、適応するだけでいいのかということを考えると、先ほどちょっとあったけども、適応しきれない子供たちも一方で生まれている面もあるし、適応じゃなくて地域を作る力とか、あるいは変える力とか含めて、いろんな力が求められている時代で全体に同化していくだけでいいかという疑問もあるだろうし、また地域から学校がなくなるというのはどういうことなのかということです。

私が聞いたところでは、岩手県の方で「希望郷いわて」と言っていますが、希望というのを一応中心概念にスローガンにしてやっているようなのですが、それを作るにあたって京都大学の広井さんという方が県の職員の学習会に来たのだそうです。その時に何て言ったかというのをちょっと聞いてみたら、地域から小学校と神社、祭りですね、これがなくなるとあっという間に限界集落になりますということをしきりに言っていたと。だから学校と祭り、神社なんかは従来ベースにしてきたわけですが、そういうものをどうやって絶やさないようにしていくか。やっぱりそれが地域のシンボルでもあるし、あるいは拠点にもなる、心のよりどころにもなるわけです。そういう点で小学校がなくなると、佐比内の場合は、小学校が場合によっては地域住民の交流の場であると同時に祭りの場でもあったというようなお話があったと思うのですが、相当ダメージがあってそれを補填する、あるいはそうならせないために今一生懸命考えていろいろ対応しているという段階だと思います。そういうふうに考えると、やっぱり子供や保護者、あるいは地域にとってもいろんな問題を投げかけているというのが統廃合問題だと思うのです。

ただ、今統廃合を元に戻すということは簡単にはできませんので、その中で統合された小学校とか中学校とか、あるいは地域から学校がなくなった地域をどうやって維持・発展させていくかということを考えざるを得ない部分もありますので、いろんな観点からお話

をお聞きしたうえでご質問とかご意見を賜ればというふうに思います。どんな形でもどんな角度からでも結構です。

質疑応答（敬称略）

Q　今、小学生が何人、中学生が何人ですか。

（蒲生）　中学生が大体100人位です。3年生は35人で、2年生は32人で、1年生だけ35人をちょっと超えたぐらいなので、20人クラスが2つという感じです。

（新妻）　統合した小学校は全部1学年1学級ですね。

（蒲生）　一番少なくて19人で、一番多くて30人ちょっと。

（新妻）　6年生が35人と言っていましたね。

Q　小学生が120人、中学生が100人ぐらい？

（新妻）　小学校は特別支援学級もあるので全部合わせると 162 人だったかな。中学校も特別支援学級があるのですが、全部トータルすると97人ぐらい。

Q　特別支援を入れて4学級？

（新妻）　特別支援は 1 年生と 2 年生で、3 年生は特別支援に行っている子はいないみたいです。中学校の特別支援は一緒にしているみたいなので4学級ですね。

Q　30人をみな超えているんですね。

（新妻）　35 以下。一番多いところで 35 人。さっき部屋が足りないというのは、転校生が来たりして足りないということです。つまり増えるはずはないという前提でやっていたら、ある学年だけが増えてしまったというので、それで教室が足りないということになったという話をしていましたね。

　子供たちは今まで佐比内小だとか、それぞれの小学校があったときに放課後の学童なんかどうしていたのですか？

（蒲生）　学童が星山にしかなくて、佐比内とか赤沢とかその他の地区は学童がなくて、大体爺ちゃん婆ちゃんが集団登校のところに迎えに行くという感じがほとんど。長岡は児童館にセットにしてもらった。

（新妻）　今、紫波東小学校になりましたよね。学童を作ったという話を聞きましたけども、敷地の中にね。そうすると学童に行かない子供たちがバスで放課後帰るのと、学童終わってバスで帰るのと…。

（蒲生）　学童は確実に保護者が車で迎えに行く。

Q　学童に行く子供たちの帰宅は保護者の責任になるのですね。

（蒲生）　そうですね。行くのも帰ってくるのも保護者の責任。バスは出ているのですが、例えば夏休みとか部活のためのバスは出る。でも学童に下の子たちが行きたいけど、そのバスには乗せないで直接行く。それは仕方ないことなのかなとは思うのですが、中学生の部活用のバスは長期休暇も出ています。

（新妻）　あとちょっと気になったのは、蒲生さんの場合バス停まで1．4キロと言っていま

したが、そのバス停というのはどういうふうに決まっているのですか？

（蒲生） うちの地区は路線バスがもう通ってないのです。うちの長男が 1 年生か 2 年生の時までは 1 日に 1 本か 2 本出ていたのですが、路線バスが廃線になってバス停自体がそもそもないという感じのところに、うちは旧佐比内農協の跡地からスタートして、違う路線だと商店の前からスタートするような感じです。たぶん選んだのは送迎も考えて多少駐車場があっるところ、バスと送迎する人たちの駐車スペースがあると思われるところです。

（新妻） ちなみに蒲生さんは、佐比内の子供たちの中でバス停まで行くのに一番遠い方ですか？

（蒲生） もっと遠い人はいるし、いま住んでいない地区というのもあるので、もしそこに子供ができたらもっと遠いところがあり得ます。

（新妻） 昔、東和町が学校統廃合したときにちょっと覗きに行ったのですが、スクールバスが 200m以内まで送迎するという。200m離れた家庭から来るのは認めないという。冬場なんかは雪とかいろいろあるし、今は雪だけじゃなくて熊もありますけども、だから200mという条件をつけてやっているという言い方をしていた。

ちょっと意外だったのは子供が小学校低学年で1．4キロだと、統廃合のいろんな条件で国の方は、バスであれ冬道であれ30分超えると子供に負担であるとはっきり言っているのですよね。雪がどっかり降ったりするとあっという間になりますよね。しかもバス停まで行くのに1．4キロというと、トータル家を出て学校に着くまでどれぐらいとなると結構厳しい現実だなと、とくに低学年の子は負担が大きいと思うのです。

（高橋） スクールバスのところに迎えに行くのが多いのですが、結構小さい事件がある。親がスクールバスの来る時間を間違えて来なかったとか、迎えがいないのに 1 年生なんかだとパニックになるのです。家もわかるから乗せて行きたくても、それはダメなんだよね。何か事故があるとダメだからと。

（新妻） 白タクみたいになっちゃうからね。

（高橋） ダメだということで、それで一生懸命連絡しようとしても連絡が取れなかったりするわけだ。どうするかというと、バスにそのまま残っているときがあって、次のところに行けなくなる。バスが 1 時間ごとに回るようにしているわけだから、遅れて来たというのが最初の方にあったりするとみんな遅くなってくるわけです。あれ、来ないなとか、そういうことなんかも結構ある。バスの運転手は、運転手もして車掌もして忘れ物ないか落し物ないか必ず見て歩く。これがまた落とすんです、これは誰のですか？と言って、一人だから大変です。

（新妻） バスの置き去り事件とかいっぱいあったから、今うるさくなっているのですね。

Q バスの運転手さんはどういう待遇、非常勤？

（蒲生） 町の方で候補者を選定して、何とか高速鉄道というところに業務委託をしているようなのです。そこで採用されている人が行っているような感じなので、町が非常勤を

雇ってという形ではなくてすっかり丸投げです。バスに関しては二中だった時もバスが2便出ていて、その時は40分ぐらい乗っていたのです。中学生だったので、その時は町の方でバスの運転手さんを契約していたのですが、今回は毎日 5 コースを何べんも回らなきゃいけないので、一人の運転手が迎えに 5 コース行きます。帰りは確実に 1 時間のうちに低学年用、中学年用、中学生の早い便、中三の便みたいな感じで 4 コース出ているので、1日5回同じルートを回っている運転手さんだなと思っていて…。

Q　バスが1台で運転手さんが一人？

（蒲生）　そうです。たぶん町のバスが 1 台か 2 台あってバスごと借りているのと、町のバスは他の町で使わなければいけない、例えば中総体があるから中総体に乗せるためにバスが出ているとか、そういうこともしているようです。しているようですというのは、そういう説明は一切ないので、知っているのは気になるから調べるという感じなので他の保護者は知らないと思う。町の人がやっているのだろうなと思っていると思う。

Q　相当早く学校に着いたりとか、遅くまで残っていることは…。

（蒲生）　ないです。歩いて通う子は相当早く通ってくるかもしれないですが、みんな 8 時 5 分ぐらいに到着するように逆算されてスタートという感じです。うちの経路は妥当な時間組だったのですが、違う方の例えばＢコースは8時5分に着かなくて8時10分だったりとか遅れるような時間だったのですが、そうするとスタートがみんな遅れるので、8時5分に到着して準備して8時15分から朝読書だったり学活を始めるという感じだと思うのですが、5 分より遅れるとたぶん大変だと思う。子供たちは準備しなければいけない、先生たちもその準備した状態でスタートというのが大変なのではないかなと思いました。うちは大丈夫なコースだったので時間が変更になっていることはないのですが、時間がもしかしたら変更になったのかなという感じは正直します。遅れると大変だから、しかも雪が降ったりしてさらに遅くなったりしたら大変なのではないかなと思っています。

Q　蒲生さんに聞きたいのですが、小中一貫校というものが紫波町にできたのですが、どうも人数を集めるために作ったというか、規模を大きくすればいいこともあるかもしれないけども、そのためだけに小学校と中学校を同じ学校に入れておくのと、小中一貫校となるのとどう違うのかということ。それから小学校と中学校が一緒になったことで、例えばその小学生と中学生が交流してお互いに影響し合って成長するという、そういう行事というのは考えられているのですか？

（蒲生）　今2年目なので1年目ですごくメリットがあるような行事というのはなくて、2年目になったときに小学校高学年 4・5・6 と中学生をまとめてスポーツフェスタみたいな感じで、体育祭と運動会は別にあって、スポーツフェスタを連携事業というような形で今年初めてやりました。それに関しては平日にやったりしていたので、こっちは見に行きたいから行くのですが、盛り上がっている感じはすごいしたので私はありだなと思っています。

学校に中三なのでしょっちゅう行くと、掲示物で子供たちが小中で何が楽しめるだろうかという案を考えたりとかして議論しているという様子は掲示物で拝見できました。オープンにされているかどうかと言われると、私はたまたま見に行く機会が多かったのでそういうことをやっているのだと、全校隠れ鬼はどうだとか、いろんな案を子供たちが出しているということが掲示物ではわかって、たぶん先生たちはすごい手探りでやっているのだろうなという感じは正直していて、1 年生から中 3 まで楽しめるようなことを児童会と生徒会で一緒に考えているのだろうなという感じはします。それは取り組みとしてはいいなと思うのですが、オープンな情報ではないので何をやっているのだろうなとは思うと思います。まだ祖父母だからいいのですが、地域の高齢者という状態の人には全くわからないから残念だなと思って、でも子供たちがそうやって何か一緒にやってみよう、こういう案はどうだろう、実際どういうふうに考えればいいのだろうというような視点を持つというのはありだなという感じはします。

ただ、できなくなったよねと言うのは、小 6 の卒業式に泣くことはできなくなったので、結局卒業式はやるのだけど来年から同じところにいるよねという感じがするので、親御さんは各小学校の卒業式では大号泣だったけれども、全く泣けなかったねという話は何人か子供がいる人たちは実感としてはあります。

今までだとどの子もみんな自分の子ぐらいのレベルで見ていたのだけれども、あの子どこの地区の子というところからわからないというので、せっかくたった 19 人とか 20 人ちょっとしかいないということは、それでも小規模な学校の気はするので、もうちょっと密に親御さん同士の話ができるようになった方がいいのではないかなという感じはします。ちょっとエリアが広すぎてどこに住んでいるのかわからないという感じが多いので。

（新妻）最近ちょっと紫波東学園に行く機会があって先生方から話を聞いてきたのですが、試行錯誤の連続ですと。それで教育委員会が立てた計画は、小中一貫にして小学 4 年までは基礎、5・6・中 1 までが成長期とか発展期みたいにして、中二・中三が完成期みたいに一応構想していると。具体的にはと言ったら、いわゆる学校教育で得意な知・徳・体に分けて、知の学力をどうするというところで、できれば縦割り学習を入れたいと。例えば中 2 と小 4 で合わせて何かできないかとか、そういうのを構想しているということと、徳のレベルではどうすると言ったら、縦割りの合唱なんかも考えて試みたいとか。あと体の方は、一緒にやる運動の時間を儲けたいとかいろいろ言ってはいますが、先ほど言ったようにカリキュラム上は時間割が大体重なってない。こっちは 50 分、こっちは 45 分授業みたいにやっていますので、だから邪魔しないようにベルは鳴らさないとかいろいろ工夫は凝らしているけども、まだ正式に何をどうして将来どうなるという見通しがあるわけではないと。とにかく試行錯誤で今組み立てろと言われて組み立てている最中ですというような言い方はしていましたね。

つまり大体の大まかな構想みたいなのはあって、これを実現するようにきてはいるけ

ども、一つひとつどう組み立てていけばいいか今試行錯誤していますと。教科のレベルはまだまだ無理だと、よって総合的学習だとか行事だとか、そういうところで一緒にできるところの範囲を広げるという辺りで対応していますというような言い方でしたね。それからやっぱり教育文化、教員文化と言った方がいいのかな、小学校と中学校は全部違うと。かたや教科学習だし、こっちは全部オールラウンドでやるので、それをどう組み立てるかだけでも難しいと。

将来的な課題として迫られて教育委員会から言われているのは、9 年間のカリキュラムを縦軸で通して一貫してできるシステムを作れというふうにはなっているけども、それも今言ったように総合的学習とかあんまり支障のないところでどうできるかということを考えている段階で、本当の教科のレベルまで行くにはまだまだ時間がかかりそうですと言っていました。

ただし、教員の皆さんも長くて5～6年しかいないそうなので、自分たちが立てた案がどういうふうになっていくのかというのを見届けることは相当難しいだろうなということをちらっと言っていましたね。だから、誰か 10 年、20 年責任を持って頑張れという仕組みにはならない。先生方も一生懸命やっているというのはその通りで、ただ非常に手探り状態でやっていますというようなことでした。ただ、ここは施設一体型で、もう一方は施設一体型ではないので、あっちは連携を施行する。こっちはカリキュラムを一本化して将来やりたいという、まさに一貫を目指していると。

また不思議なのは、紫波町は中心地、日詰とか町場の中心地は連携も一体も何も関係ない。だから紫波町には 3 つの教育システムがあるということになるわけです。小中一貫、小中連携、今まで通り、一体どこを目指して何を目指しているのかという、もっと言えば統合するために小中一貫を出してきたのだというのが、おそらく正解だろうと思うんです。今の段階ではそうしか見えないなと。それを丸投げされている地域とか先生方は苦労しているというのは、ありていに言えばそういうことかもしれないですね。

Q 学校には校長が 1 人で副校長が 2 人、副校長はそれぞれ小学校と中学校を受け持っているということですが、卒業式とか入学式とかは別々だと。校長先生は 1 人で小学校も中学校も卒業式に出るのですよね。日にちを違えてセットする。全校朝礼とかあると思いますが、いずれ校長先生は 1 人で小学校長と中学校長をこなさないといけないということですよね。全部小学校 1 年生から中学校 3 年生まで一緒に集めて朝礼とかやらないですよね。

（蒲生）やらないと思います。やっているふうな話はしていないです。しかもコロナの時に始まったので全校朝会とかもほぼないのではないかなと思います。

Q 基本的には小・中分けて、西のように校舎は一緒だけど別々の学校だと。校長先生は、行事は別だから日にちを違えて小・中どっちも校長先生が出られるようにしなければいけないという感じかな？

（蒲生）そんな感じです。運動会も別で学習発表会と文化祭は別だったので。ただし授業参

観は一緒でした。授業参観は保護者も中学生から小学生まで観たいとなったときに一緒にやって、PTA総会というのもPTAが一つの組織なので中2か中3の親がPTA会長をやって、小学6年生のPTA会長はいないです。

Q 運動会を小学校がやっていれば中学生は中で勉強している？

(蒲生) 大体土曜日とかだったので、取り組みに関してはそういう感じになっています。一番の問題はプールだったのですが、プールは1個しかないし、体育館は2面のコートですけど、今どうやって休み時間に遊んでいるのか正直イメージはつかないです。何曜日は何年生みたいな感じで分かれているかもしれないのですが、建物としては小中一貫校になったのですが、足りないものもすごく多くて、人数少ないから部活も少ないのです。男子の部活は野球部と卓球部と文化部しかないので、サッカーグランドでサッカーができない。サッカーとかバレーとか授業でやっているくらいしかできないかなと。グランドも二中のグランドとサブグランドがあるのですけど、サブグランドは普通の公園みたいな感じです。そこで小学生が行進できるかと言われたらできないので、何かの大きい行事となると大きいグランドで運動会をやったり体育祭をやったりということになります。なので、どうのようにやっているのだろうなという感じはします。

新しく建物を作ったのですが、柔道場はないので、柔道部もないですけど、町の体育館にバスで行って柔道の時間数をしなければいけない感じになっています。なんかすごい詰め詰めなのではないかなと正直思います。バスに乗って町の体育館に行って、必要時間数を柔道着を着てやって、バスに乗って戻っていくというのをやっているので大変だなと思って、新しく作るのだったら柔道場だって作ればよかったのにという気はしないでもないです。必要な科目ですよね。

(新妻) 中学校は武道が必ず必修だからね。

(蒲生) やらなきゃいけない時間数分、町の体育館に行っています。

Q 給食のことが知りたいのですが、紫波の給食は自校式ですか？

(蒲生) 給食センター式です。給食センターが星山にあるのですが、そこから運ばれて来ていて、車の中から何年生分みたいな感じで配膳されていて、小学生の方が先に行って自分の学年分取ってきて、中学生は時間をずらして取ってくるという感じになっているようです。

Q わりと農業が盛んな地域なのに全然地産地消とか関係ない？

(高橋)そうではないはず。給食センターの方に地元産が行っている。

Q 給食が今すごく高くなってきているというのでお弁当の日が増えたりしてなかなか親の負担が大変というのが市内で出ているのですが、だいたい月どれぐらいの給食費で、お弁当の日とか結構あるのですか？

(蒲生) 大体小学生が4500円ぐらいで、中学生が5300円ぐらいなのですが、例えば小学4年生が校外授業とか、林間学校に5年生が行くみたいな時で小学生全員が食べられない日がある日は、小学生は弁当です。中学生は給食が出ます。その代わり年間で例えば仮

にですけど105日通います、うち10日分はお弁当の日というふうに配分されているのかなという感じはします。弁当の日が全くない月もあれば、月に 3 回弁当の日だったという時もあります。給食に関しては配膳式なので、でっかいおつゆがあって、おかずはメインのおかずと小おかずと、ご飯があって牛乳があってという感じで、週 1 回フルーツとかゼリーが出るような感じで組み立てをしているみたいで、フルーツだったりとかうちも出したりしているのですが、ぶどうとかりんごとかは地域のところの業者でその規格を納品できるようなところにお願いをしたりとか、あと紫波だと「もちもち牛」を使いたいとか、全部は使えないからちょっと薄切りにして肉ジャガに混ざっているとか、そんな程度にはなっているのですが、そういう努力はしているかなと思います。

給食に関しても給食センターが町ではなくて民間に委託されているような形になっているので同じぐらいのレベルでできるかということと、あと町の調理師さんはすごくいろんなことを考えてくれてアイデアを出して町のものを使ってメニューを作ったりというような話をしていて良い印象を受けた感じはします。

（新妻） 前の町長の時に新しいセンターを作って、地産地消をできるだけやるということで始めたようなので、おそらくそこは極端に変わってはいないだろうとは思いますけどね。

（蒲生） 学校の先生も他から来ると、わりと紫波町のご飯は美味しかったと言われたりしていると聞いて、それは嬉しいことだなと思いました。

Q 学校跡地の活用の問題ですが、統合学校を作ることが先で、その跡地をどうするかというのは地域の皆さんが一生懸命考えてどうするかというのを進めるのがまともだと思うのですが、とにかくこれを見ると先に学校作ってしまって、それで跡地をどうするかと、そして民間に貸出してしまう、そんなやり方は本当にすごくおかしいと思う。佐比内は高橋さんがいるからいろいろ委員会とか作ってやっているかもしれませんが、他ではどうにもまとまりきれないような、使い勝手の悪いようなおかしなものをやっているわけだよね。非常に問題だと思うのですが、なんで地域の人たちが一緒になって考えてやるというふうな時間的余裕が全然なかったのか？

A（参加者） 単純明快なんですよね。紫波町はずっと小規模でも地域の学校を残すという方針で、岩手県内でも最も優れた小規模校を大事にする町だったのです。だから、1990年代から2000年代の初頭にかけて、今度なくなった小学校を全部木造で建て直したり、どこの学校に行っても向こう20～30年十分使えるような立派な学校があって、佐比内小学校もいろいろ改築して、そして地域にそれぞれ特色のある教育、一番典型的なのは佐比内小学校だったのですが、金山太鼓なんか教育全般に取り入れて、地域で小学校中心にして盛り上げてやったし、隣の赤沢というところも12～13年前に新しく改築したのです。それから片寄なんかも耐震構造で30～40年持つような骨組みのがっちりした校舎を作って、佐比内小学校とかで複式が入りだしたのですが、町で複式を維持するために必要な教員を町の加配で何人か配置して、そういう方式を藤原孝町長の時にはやったのです。

ですから、私たちは県内各地で学校統合の問題が起きていた時に民教研というところで研究集会やるときに紫波町の町長を講師に呼んで、小規模でも学校を残すことがいかに大事なのかという講演をお願いして、そして県内各地で統廃合を阻止する、止める運動をやっていた見本だったのです。だから我々も安心していたというか、紫波町はそんなに簡単に統合しないというふうに各地で私も話をして歩いたのですが、町長が変わって今の熊谷泉町長になってから何だか話し方が変わって、前の町長も自民党系の町長だったのですが、地域のそういう意見とかを取り入れて、自民党系だったのですけど自民党の政策をそのまま持ってくるのではなくて、地域の実情を聞いてやる地産地消だとか、今ある紫波町の原風景を 100 年後の子供たちにも残せるような、そういう農林業を基盤にしたものを進めるというので、町産材を使った公共施設を作る、紫波中央駅なんかも町産材を使ってということだったのです。

その時に保守系の議員の何人かが複式学級はダメだから複式を解消してほしいという請願を町議会に出したら町長のもとで一喝されて、そんなことは紫波町でやらない、少人数でも教育を守っていくというふうにして、その意見が蹴られたのが悔しかったという町会議員が何人かいたんです。この人たちが、町長が変わったことを機会に策略を練って、教育長も手を貸して岩手大学から専門家を呼んできて、切磋琢磨が大事だということで、統合するときに絶対に小学校東の 5 つと西の 3 つを 1 つも外さないようにするために小中一貫校という構想を出してきたのは、さっき新妻先生が言った通りです。小中一貫校は統合の道具にされたのです。私たちも反対はしたのですが、まとまらなかった。ということで、簡単に言えばそういう仕掛けに負けたということですね。

（新妻） ひとつだけ言っておくと、小中一貫で紫波東学園と言っていますが、中学校の校歌も小学校の校歌もあるのです。小学校なんか新しい校歌を作っている。それを見たとき本気かって、なぜかというと大槌学園なんかは校歌も一本化していますからね。しかもその校歌を作った作曲は現在の教育長だから、自分で統合していてなぜ校歌を作るのと思ったりします。

ということで、いろいろ聞きたいことなど議論も尽きないのですが、お二人に時間的制約がありますので、これを持って今回の学習の発表・報告については終わりたいと思います。ありがとうございました。